

令和4年度 自己点検・自己評価及び学校関係者評価

4：達成 3：概ね達成 2：達成には不十分 1：達成していない

| I 学校運営 | |
|--|---|
| 自己評価：3 | 学校関係者評価：4 |
| <p>・前年度の評価を元に組織目標を設定し中間評価を経て、目標の達成を目指している。単年度評価に留まらず、将来を見据えた運営を意識していくために中長期目標を設定していきたい。学生確保の困難性もあり、今後のあり方検討を早急に進めていく必要がある。</p> <p>・定期的に諸会議を実施しており組織の情報交換・共有を図っている。また、新カリキュラム運用会議は毎週実施し、効果的な運用・改善を図る努力をしている。しかし、効果的な意見交換ができる会議のあり方が課題である。会議での意見が教育活動に効果的に繋げられる組織力を高めていきたい。</p> | <p>多忙な日常業務のなか、今後の方向性、将来を見据えた課題等の検討を進めている。本校の運営には静岡済生会総合院との連携が重要なので、病院関係者と連携を取りながら検討を進めていくことも重要。</p> |
| II 教育理念・教育目標・教育課程・教育活動 | |
| 自己評価：3 | 学校関係者評価：4 |
| <p>・今年度から新教育課程の対応のため、生活者を意識した授業内容・進捗の設定、ICT化に伴いタブレットを使用した電子教科書等を導入した。来年度からは学習支援ソフトも取り入れていくため、教員が効果的に活用できる教授方法の学習会を始めた。新教育課程の運用に際して検討すべき内容は多々あるため、実施した取り組みを早期に評価し、効果的な運用となるよう修正を進めている。2・3年次生の旧教育課程に対しても、学習効果が上がるものは取り入れていく柔軟性も必要である。</p> <p>・教員の専門性を広げるためにチーム制をとっている。様々な教員の意見を取り入れ、積極的な学習ができる機会を増やしていきたい。教員の経歴を重視して教員を配置しているが、人材不足・社会情勢・専門学校であることを意識すると、幅広い領域に対応できる意識と調整が必要と考える。教員の教材研究時間の確保に困難性を感じている教員も多い、業務や時間のマネジメントができる環境整備が課題である。</p> <p>・夏季休暇等を利用して成績下位者には学習支援を実施している。わずかではあるが成果は見られているため継続的に支援していきたい。</p> <p>・授業評価をQRコードに置き換えたが、回数を追うごとに実施者が激減した。授業評価の目的を再認識し、学生の興味・関心を仰ぎ、授業の改善に繋げられる授業評価を検討中である。</p> | <p>・電子教科書の導入が、教員の的確な指導等により、教育（授業）をより効果的なものになっている。学習支援ソフトの導入など積極的にICT化を進めている。</p> <p>・学生による授業評価は、学生に評価の目的や評価結果の具体的な活用等について丁寧に説明することが大切である。</p> |
| III 卒業・就職 | |
| 自己評価：3 | 学校関係者評価：4 |
| <p>・国家試験の合格率が維持できるように1年次より計画的に進めている。学生主体で取り組む関わり方が学習効果を上げている為、クラス・個人の特徴を捉えながら根気よく学習意識を高めていきたい。</p> <p>・卒業生からの病院説明会を継続して実施しており、実習・就職に繋げている。また、就職・進学に向けての意識を高めるため、他施設・学校の情報提供、面接や論文の試験対策を2年次より取り入れている。</p> <p>・卒業生の相談には適宜対応しており、実習の場で声をかけながら支援をしている。また、ホームカミングデイの実施時期を来年度から変更し、多くの教員が関われ、リフレッシュでき業務継続への支えとなる機会にしていきたい。</p> | <p>・国家試験合格率100%を維持していることは素晴らしい。学校のきめ細かなサポートがあつてのこと考える。教員と学生やOBとの距離感が近いことがうかがえる。</p> <p>・昨年度の課題にも的確に対応し、改善している。</p> |
| IV 学生生活支援 | |
| 自己評価：4 | 学校関係者評価：4 |
| <p>・経済的支援に対しては、個別対応と全体への広報をタイムリーに実施し、公平に情報提供ができるように努力している。</p> <p>・スクールカウンセリングの利用者が3名/年である。ストレスチェックの結果、要注意の学生はスクールカウンセラーとの面談を進め、自己の状況を認識できるように声掛けを実施したが、活用度は上がらない状況である。カウンセラーとの距離を縮める関わりを検討していきたい。</p> <p>・健康診断の結果により受診の有無をが確認をしており、その後の健康状態に注意し学生に声をかけている。また、特別欠席になった学生に対しては、長期休暇を用いて授業の補充をして学びを保障している。</p> <p>・コロナに関連する欠席者は、各学年20人程/年であった。欠席時、受講が可能な学生には遠隔で授業対応を実施した。また、感染拡大を防止する必要があつた時は、速やかに遠隔授業に切り替え感染防止に努めた。</p> | <p>・スクールカウンセリングの実績が低いものの、日頃、教員が学生に積極的に声を掛けるなど、コミュニケーションを取っている。</p> <p>・オンラインでのカウンセリングの導入などの事例もあると聞く、カウンセリングを利用しやすくなるよう、今後とも工夫を進めてほしい。</p> |

| | |
|---|--|
| I 学校運営 | |
| V 経営・管理・財政 | |
| 自己評価 : 3 | 学校関係者評価 : 4 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・教育効果・影響を考慮して限られた財源を有効に管理・活用に努めているが、将来構想を明確にもって計画的に執行していく必要がある。 ・教育現場に焦点を当てたハラスメント研修を全職員で受け、意識を高めた。外部から学校への苦情メールが本部に送付された。事実と異なる内容であったが、真摯に受け止め学生への対応姿勢を改め直した。多様化する学生の状況に留意して対応していきたい。 ・学校の構造上、小鹿苑との合同防災訓練が必要なため今年度から実施。また、災害時の危険回避のための環境整備も実施した。防犯対策のためのカメラの設置を予定している。更に危機管理体制を整えていきたい。 ・学生からの学校運営評価の結果は、検討し回答をしている。学生目線の意見も大事に活かしていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント研修、小鹿苑との合同防災訓練の実施、防犯カメラの導入など、広い意味での危機管理体制の整備に努めている。 |
| VI教育環境 | |
| 自己評価 : 3 | 学校関係者評価 : 4 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化している施設の整備は学生募集にも大きな影響を与えるため、既存の施設の学習環境を整え、学生が魅力を感じる整備が必須である。今年度は、洋式トイレの改修工事を実施した。また、トイレの清掃は来年度から業者委託とし、安全安心な学習環境の整備を意識した。長年放置してあった物品を整理・廃棄し整然とした環境づくりに努めた。引き続き予算をみながら計画的に施設の整備・改善を進めていきたい。 ・学生が自由に利用できる空間づくりの場が必要である。コロナの影響により本来の施設の使い方ができないために、感染対応が落ち着いた頃に和室・合同・調理室の環境整備をしていきたい。 ・図書システムを導入し整備を進めているが整備完了に時間を要し、学生からの指摘もあるため、人を増やし早急に進めたい。また、学生の使用頻度が高い図書を増やして効果的な学習に繋げられる図書室づくりを更に実施していきたい。 ・教員の研修参加の機会が減少しているが、教員全員でのeラーニングやオンライン研修を取り入れた。与えられた研修だけでなく、自ら自己研鑽していく学び方が望まれる。また、教員経験の長さに伴い、臨床力の低下が課題となる。看護部との人事交流や研修を働きかけていき、教員として臨床力の向上を目指していく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・施設に関しては、小鹿苑と同じ建物内にあり、大きな整備改修等が単独ではできない面もあるなか、トイレ改修、トイレ清掃の外部委託、図書システムの導入など教育環境の整備に努めている。 |
| VII 広報・地域との連携 | |
| 自己評価 : 3 | 学校関係者評価 : 4 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・大学志向・18歳人口の減少、今年度の入学定員数割れを踏まえ、危機感をもって学生募集に臨んだ。また、入試アンケートを見直し、受験校決定理由や受験生の意見を学生募集に繋げていけるように取り組んだ。一般入試の受験者は27名増加したが、合格者発表後の辞退者も多く学生確保に苦慮している。受験日等は受験者確保に大きく影響受けるので、近隣の学校情報に留意していきたい。 ・学校生活の発信頻度を上げる努力をし、ホームページを6年ぶりにリニューアルをする。受験生・父兄等の学校情報の入手手段を意識し、本校の特徴を情報発信できる工夫が更に必要である。 ・3年ぶりに家族を招いて学校祭を実施し、日頃の学校生活の一部を理解して頂くことができた。また、新カリキュラムでの「地域で生活する人を知る実習」ではクリニックや施設を広く活用した学びであり、本校の存在も知ってもらえる機会にもなった。さらに感染状況を鑑み、地域への関わりも広げていきたい。 ・2年生の学生が県警の防犯ボランティアに加入しており、防犯標語で表彰された事例もあった。社会貢献をしている事は学習の励みにもなり、他の学生への刺激にもなった。地域への参加活動ができる機会を与えていき、済生の精神も意識させていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・志願者の減少傾向を受け、危機感を持って、入試広報等に努めている。 ・ホームページのリニューアルするなど、広報、情報発信を積極的に取り組んでいる。 |